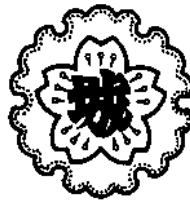


学校だより



済美



南砺市立城端小学校
令和3年2月25日

感染制御の父 イグナッツ・ゼンメルワイス医師

教頭 安田 祐子

ご家庭、地域の皆さんには新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めてくださっていることに感謝申し上げます。その波及効果から、今年はインフルエンザが例年のように流行していないことに驚くとともに、大変ありがたいことだと思います。「手洗い」に感染症を防ぐ大きな効果があることは誰でも知っています。先日、「手洗い」の重要性を粘り強く説いた“感染制御の父”といわれる一人の医師について以下のような記事を目にしたので紹介します。

1846年、ゼンメルワイスは、第一産科クリニックの医科長になりました。第一産科クリニックは産褥熱による死亡率が13.10%でした。しかし、当時、第二産科クリニックの死亡率はわずか2.03%だったのです。同じ病院に属し、同じ技術を用いていましたが、そこで働く医療従事者だけが若干違っていました。第一産科クリニックでは主に医学生の教育を行い、第二産科クリニックでは助産婦の指導を行っていたのです。そこで、死体による感染と産褥熱との関係を示唆し、両クリニックにおける死亡率の統計学的研究を始めたのです。その結果、彼が解剖室から出てきた医師や学生たちは、感染性の粒子を手に付着させたまま第一産科クリニックの患者を検診していることを突き止めました。そこで解剖室から検診に向かう医師たちに、さらし粉溶液で手を消毒することを義務づけ、それにより死亡率はそれまでの12.24%から2.38%へと激減し、第二産科クリニックとほぼ同様のレベルになったのです。1848年、ゼンメルワイスは消毒の範囲をさらに広げ、産婦に接触するすべての医療器具も消毒するよう命じました。その結果、産婦人科病棟から産褥熱はほぼ完全に撲滅されました。

(出典:BD『感染制御の父 イグナッツ・ゼンメルワイス』<https://www.bdj.co.jp/safety/articles/ignazzo/1f3pro00000sihs4.html> R3.2.12)

手洗いに効果があると結論付けられるまでに、ゼンメルワイス医師のなみなみならぬ苦勞もあつたのですが、紙面の都合上載せられませんでした。興味のある方は上のURLを閲覧してみてください。

私たちが何気なく過ごしている今の暮らしは、このような先人の方々のたゆみない努力と、過去からの積み重ねの上にあることに、感謝の気持ちをもって過ごしたいものです。

3月の主な予定

- | | |
|--------|---------------------|
| 1日(月) | 集団登校 地区児童会
集団下校 |
| 3日(水) | 学校集金
5年プログラミング学習 |
| 10日(水) | さわやかデー |
| 15日(月) | 集団登校 卒業式予行 |
| 17日(水) | 卒業式準備 |
| 18日(木) | 卒業証書授与式 |
| 19日(金) | バス集会 集団登校 |
| 20日(土) | 春分の日 |
| 22日(月) | 5限後下校 |
| 23日(火) | 給食終了 集団下校 |
| 24日(水) | 修了式 |
| 25日(木) | 学年末休業開始(～6日まで) |



～ぽかぽかコラム

5年生の取り組み～

スキー学習前日。城端小学校に一本の電話。「暴風雪のため、明日はすべての Gondola・リフトを運休します。」イオックス・アローザでのスキー学習を楽しみにしていた子供たち。スキー場を変更し、何とか「たいらスキー場」で行えることになりました。しかし、スキー場での過ごし方や昼食の摂り方等、急遽変更となりました。事前の計画がすべて白紙。初めての場所で、初めて使う休憩所。どのように子供たちが行動するのか注目しました。「〇班の場所は、あそこだよ。」や「汚れている机をきれいに拭かんなん。」という声かけ。5年生がすることになったガレージの机と椅子の片付けに加え、ごみを進んで拾う姿。この活動を通して、「自然の厳しさ(ある意味で美しさ)」と「臨機応変」ということを学びました。

(5年担任 石崎 宏樹)

教育活動から

スキー学習 1/22 (金) 3・6年、 1/27 (水) 1・4年、 1/29 (金) 2・5年



2/3 (水) 6年生乗り入れ授業

2月 タブレット端末の使い方についての授業



情報教育推進担当より

子供の IT 機器の操作技術や、インターネット等の情報を扱う力について必要性が高まる中、本年度城端小学校では、様々な取り組みを行いました。その中から2つの取り組みを紹介したいと思います。

一つ目は、6年生による、タブレット端末とドローンを使用したプログラミング学習です。様々な障害を乗り越え、ドローンを目的の場所までたどり着くよう、グループで話し合いながらプログラムを考えました。試行錯誤を繰り返し、上手く障害物をかわせるよう考えを出し合う中で、協働する姿が見られました。また、成功した喜びをグループで共有することができ、仲間とともに考えるよさに気付くことができました。3月には5年生も体験する予定です。

二つ目は、クラブ活動におけるビジュアルプログラミング言語を用いたプログラミング体験です。「プログル」等の教育用のウェブサイトを用いて、コンピュータに直角三角形や正多角形を描きました。最初はプログラミング言語特有の癖に戸惑う場面もありましたが、試行を繰り返す中で、プログラムを効率化したり、発問を超えた高度なプログラムをつくったりする姿も見られるようになりました。

IT 機器は、使えなければ不便ですが、正しく使えばとても便利なものです。引き続き、学校でも IT 機器との向き合い方について指導をしていきたいと思っています。

情報教育推進 (砂土居 裕貴)